

令和2年度 評価委員会 討議内容

1. 開催日時 令和3年3月22日(月)
2. 参加者 大学教授、PTA会長、幼稚園より2名、連合町会長（欠席）
3. 内容

(1)幼稚園の取り組み（重点目標）について

○「身の回りの自然現象や社会事象等への興味や関心を引き出す取り組み」について

- ・自然や社会への興味や関心を引き出し好奇心や探求心を高められるような保育環境や保育内容を創造するには、教師が敏感に様々な事象に反応して保育に取り入れる指導力が必要である。
- ・7月の豪雨災害を取り上げた活動から、子どもたちによる募金活動が生まれていった。被災者の困っていることに気付く人の役に立つという経験ができた。保護者からは自然災害や募金活動等についての親子の会話が増えたとの感想が寄せられた。

○『コロナ禍に於ける本園の取り組み』について

- ・マスクを着用した生活が定着している。子どもは群れて遊ぶものであり、リスクを抱えていることを念頭に置き、飛沫感染を防止するためのうがいの徹底、パーテーションを設置しての黙食指導など生活習慣を見直し指導の強化を図ってきた。また、接触感染防止のための施設やおもちゃなどの消毒にも力を入れてきた。
- ・感染拡大が続く中、人々の健康な生活を支えるために頑張っておられる医療従事者の活躍を知り、病気で苦しんでいる人のために頑張ってくださいという人たちの尊さに気付くこともできた。その中で、ますます困らせることがないように、自分たちでできることは、病気にならないことだと気づいていった。そのために、自分たちの生活習慣を見直し、徹底した手洗い・うがいを励行しようという思いを持つようになった。コロナ患者を受け入れている病院へ気持ちを伝える取り組みへとつながっていった。

(3)次年度への展望

- ・自然災害時に対応した訓練の強化を図るとともに、地域に密着した避難体制を整えていきたい。
- ・新型コロナウイルス感染症の拡大防止を考慮し、行事を精選し、内容を検討しなければならない。

4. 講評

①教育内容について

- ・自然現象や社会事象についての今後必要とされていく事柄であり、継続して行ってほしい。
- ・教育現場でのコロナ対応は大変であったと思う。素晴らしい取り組みであった。子どもたちに、自分たちの行動について考えさせる教育は素晴らしい。これからの大学入試でも教科書の内容を問うより自分で考える問題になっていく。考える力を育てていくことが大事である。

②コロナ対応について

- ・今までできていたことができなくなった時、今までできていたことの意味を考える良い機会である。従来の保育ができるようになった時に再度意義を考えてみる、これが大事である。
- ・子どもにさせてあげたい経験ができないことがあったとしても、できる方法を模索してきたことが分かり素晴らしい取り組みであったと思う。

③保護者アンケートについて

- ・1学期と3学期とを比較することで、保護者の揺れる思いも感じられる。数値に差が見られる項目については、職員間での検討が必要である。評価することで指針が見いだせ、価値観の多様な保護者からの情報の収集も必要である。

④保護者としての思い

- ・毎日園内の消毒をしてもらっていてあり難い。保育参観がなくなり残念だったが、子どもを守ってもらっていることが分かりあり難い。
- ・卒園式は感動的であった。子どもたちが舞台上から現れるとは思わなかった。もらった卒園証書を感謝の言葉とともに渡してもらい。感激した。コロナ禍でできる工夫をしてもらってあり難い。